三豊中学校学校通信　～「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒」を目指して

希望が丘

令和４年６月２１日

第 １２ 号

仲間の支え

先日、妻と今春高校を卒業した娘と３人で、娘が３年間お世話になった高校の陸上部の応援に、四国総体の会場へ行ってきました。コロナが少し収まってきて、有観客での開催になったことから、半日だけでしたが、これまでのお礼を兼ねて行ってきました。

最終種目の４００mリレーが終わって、帰ろうとバックスタンドの外を歩いていると、ある高校の部員たちが、帰り支度を整え、整列して誰かを待っているようでした。するとそこへ、リレーの前に行われた５０００m競歩で６位入賞を逃した（インターハイ出場を逃した）選手が、涙を流しながら戻ってきました。彼を見るやいなや、２人ほどの男子部員が駆け寄って肩を抱き、「次は俺に任せとけ。」と言って励まし、他の部員たちも健闘をたたえて拍手で彼を迎えました。彼は、２～３回うなずきながら涙を拭いて列に入りました。「いい仲間たちに恵まれたんだなあ。」と思いながら、私は、あることを思い出しました。（以下、私事で恐縮ですが、お読みください。）

１年前の同じ四国総体の初日、うちの娘は４００mの決勝のスタートラインに立っていました。メインスタンドの３００m付近にいた私は、大声を出しての応援は禁じられていましたので、精一杯の拍手を送り続けました。私の前を通過するときは、確かに７番手。祈る思いで最後の直線を見守りました。トラックレースの着順と記録は、写真判定装置で判定しながら、１位から順に電光掲示板に表示されます。３位には、同じ高校の１つ下の後輩（実は優勝候補でした）が入賞し、高校の応援席からも大きな拍手が沸き起こりました。４位、５位と続き、いよいよ６位。少し間をおいて、娘の名前が表示されました。（最後に粘って、何とか１人抜くことができたようでした。）すると、応援席からひと際大きな歓声と拍手が沸き起こりました。私は、娘が目標にしていたインターハイ出場が叶ったことより、こんなに多くの仲間に支えられて、３年間部活動を続けてこられたことに対する感謝の気持ちで、胸がいっぱいになりました。その後、娘のところへ行きましたが、他校にいる中学時代からのいろいろなライバルたちからも祝福されていて、結局、「おめでとう」が言えたのは家に帰ってからでした。

競歩の練習は、地味ですが、とても苦しいものです。あの彼も、練習の過程でくじけそうになったことがあったかもしれません。そんな時の支えは、家族はもちろん、きっと仲間の励ましだったに違いありません。うちの娘も、疲労骨折で２年生の１年間は、思うように走れませんでした。それでも仲間の支えがあったからこそ、あきらめずに治療と練習を続け、１年前のあの日を迎えることができたのだと確信しています。

私たちは、みんな弱さがあります。でも、自分の弱さを認めることで、一歩を踏み出すことができるのだと思います。そして、そこには家族や仲間のように、支えてくれる人が必ずいます。苦しいときは、そんな人たちを頼って、甘えて、苦しさを乗り越えることがあってもいいと思います。そして、次は誰かを支えてあげられるよう、力を蓄えておくことが大切なのだと思います。

ちなみに、妻と娘と３人で行きましたが、娘は学校関係なくいろんな後輩のところへ声をかけに回って、久しぶりに会ったのに、結局ほとんど一緒にいませんでした。「まっ、それもいいか。」と自分に言い聞かせながら帰ってきました・・・。

いよいよテスト

いよいよ、明日から期末テストが始まります。これまで、部活動も休みになり、見たいテレビやゲームを我慢し、計画に沿ってテスト勉強に励んできたんですよね。その頑張りを、しっかり発揮してください。テストの午後も、残された教科の勉強のために、時間を有効に使ってください。まだ、時間はあります。後悔しないよう、最後まで、しっかり粘ってください。